

**原油タンカー排出ガス処理設備が「日経ものづくり大賞」を受賞
排出ガスから年間約1万KLのエネルギーを回収・有効利用**

記者各位

当社(社長:西尾 進路)ならびに当社グループの原油中継備蓄会社である新日本石油基地株式会社(社長:淵脇 哲朗、鹿児島県鹿児島市、以下「新日本石油基地」)は、「原油タンカー排出ガス処理設備」について、第5回「日経ものづくり大賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

「日経ものづくり大賞」は、日本経済活性化の原動力になる「ものづくり」を推進するため、日本経済新聞社が2004年度から毎年度、優れた国内外の工場や研究所、およびそこで採用するプログラムやシステムに対し、その功績を称えるために実施しているもので、当社グループは、一昨年の「ベトナム・ランドン油田随伴ガス回収・有効利用CDMプロジェクト」に続き、2回目の受賞となります。

当社ならびに新日本石油基地では、新たな技術開発に際し、基礎的な理論と実践的な対策をマッチングさせるため、2004年から臭気成分などの排出ガスの性状把握について、鹿児島大学と産学共同研究を進め、本設備を建設いたしました。原油タンカーからの排出ガスを収集・処理する日本で初めての設備として、2007年5月より稼動しています。

本設備では、年間3,100万m³の排出ガスを処理し、排ガス中に含まれる約70%のVOC(揮発性有機化合物)をエネルギー(原油換算:年間約10,000KL)として回収し、有効利用します。回収されなかった残りのVOCと臭気成分は、分解装置で処理されます。VOCの回収においては、灯油や活性炭を使用する従来のプロセスではなく、直接原油で吸収するという、当社グループが独自に開発した世界初のプロセスを用いており、将来的には、中東諸国など産油国での原油出荷基地において、環境対策とエネルギーの有効活用に寄与する技術になりえるものと考えています。

当社グループは、経営理念の中に「Environmental harmony(地球環境との調和)」を掲げ、今後も地球環境保全に努め、サステナブル(持続可能)な社会の創造に貢献していきます。

以上